



平成 18 年 12 月 26 日

各 位

会社名 ラオックス株式会社  
代表者名 代表取締役社長 本多 利範  
(コード番号 8202 東証第2部)  
問合せ先 執行役員 広報 IR 室長 山下 巖  
(TEL 03-5446-5701)

### 特別損失の発生及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、昨日公表した、平成 19 年 3 月期中間決算短信の修正及び一部訂正に関するお知らせにより発生した訂正処理に基づく特別損失の発生ならびに、通期(平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日)の業績予想について下記の通り修正いたしますのでお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 特別損失の発生について

当社は、新物流システムを 6 月より稼働させましたが、物流倉庫・運輸の受託業者のシステム運営にトラブルが多発し、9 月末時点で 769 百万円の棚卸違算が発生する結果となりました。この原因について調査を行ったところ、倉庫における仕入商品の検収および配送に係るシステム処理を適正に行うことが出来なかったことが原因であると判明いたしました。

従って、これを原因とする棚卸減耗損は売上に対応すべき原価とは認められないため、中間期末における当該損失額 769,836 千円を特別損失として処理することといたしました。

#### 2. 平成 19 年 3 月期通期業績予想数値の修正(平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日)

##### (1) 連結業績予想数値の修正

	売 上 高	経 常 利 益	当期純利益
前回発表予想(A)	91,500	120	5,560
今回修正予想(B)	91,500	272	4,942
増減額(B-A)	-	152	618
増減率(%)	-	126.6	11.1
(ご参考)前期実績(平成 18 年 3 月期)	103,406	383	9,891

(2) 個別業績予想数値の修正

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	87,200	210	5,640
今回修正予想(B)	87,200	362	5,022
増減額(B-A)	-	152	618
増減率(%)	-	72.3	10.9
(ご参考)前期実績(平成18年3月期)	98,596	248	8,950

3. 修正理由

(1) 連結業績予想の修正

前記、特別損失の発生。

未収入金350百万円の取消

物流関連トラブルに対し、物流業者との協議の結果、前記棚卸減耗損の総額769百万円の内350百万円を補填することで暫定的に合意し、覚書を入手したことから、未収入金として計上するとともに、棚卸減耗損と相殺される性格の収益であると判断し、売上原価控除項目として計上しておりました。しかしながら、上記の覚書については、最終的な金額及び決裁条件の合意に達することが困難となったため、未収入金350百万円及び売上原価控除項目350百万円を取り消すことにしました。また、売上原価に計上した420百万円は、上記1.の理由により取り消しました。

販売費及び一般管理費の物流関連経費268百万円の追加計上

物流関連トラブルに起因して、下半期に計上した経費について、その内容を調査した結果、上半期に処理すべきであると判断される経費が含まれていましたので、これを修正致します。この結果、損益計算書上の販売費及び一般管理費の物流関連費が268百万円増加いたします。

これらの修正処理の結果、中間連結損益計算書につきましては、売上総利益は420百万円増加し、8,976百万円となり、経常損失は、152百万円減少して581百万円となりました。税金等調整前中間純損失は618百万円増加し732百万円となり、中間純損失は712百万円となり、通期見通しへの影響額は経常利益が152百万円増加し、当期純利益が618百万円減少する見通しとなりました。

(2) 個別業績予想の修正

全項目(1)の から に関する内容は、連結と同様の内容であり、個別における中間損益計算書におきましても、影響額は連結と同様となり、売上総利益は420百万円増加し、7,585百万円に、経常損失は152百万円減少し、366百万円となりました。また、税引前中間純利益が618百万円減少し、税引前中間純損失が517百万円となり、中間純損失が528百万円となったことにより、通期見通しへの影響額が、連結と同様に、経常利益が152百万円増加し、当期純利益が618百万円減少する見通しとなりました。

(注) 今回の予想は、本資料の発表時現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、最終の業績は今後さまざまな要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上